

にWHO事務局長マーガレット チャン博士による発表の冒頭部分を引用する。

WHO委員会は米国、メキシコ、カナダにおけるA(H1N1)豚インフルエンザのアウトブレークに関するデータならびに近隣の国々への流行波及の可能性に関する報告を検討した。委員会の意見を踏まえて、WHO事務局長はインフルエンザパンデミックのレベルをフェーズ3からフェーズ4へ引き上げた。(以下省略)

WHOは2009年4月29日にはフェーズ4をフェーズ5に上げ、名称をインフルエンザA(H1N1)と訂正した。

A(H1N1)[A(Hsw1N1)を含む]、A(H2N2)、A(H3N2)の3つの亜型は人のA型インフルエンザウイルスである。インフルエンザウイルスの本来の宿主は鳥である。鳥には、H4-H16、N1-N6の様々な組み合わせのウイルスのライブラリーが存在しているが、人→人の持続的な感染が起きたことがないので、鳥インフルエンザウイルスといわれる。したがって、新たに人から人に伝染する能力を獲得するウイルスがあるとしたら、鳥インフルエンザウイルスであろうと推測される。

WHOは鳥インフルエンザが人類で大流行することを想定して6段階のインフルエンザ警戒水準レベルを既に設定していた。フェーズ4は「限定された人一人感染の小さな集団(クラスター)が見られるが、拡散は非常に限定されており、ウイルスが人に対して十分に適合していないことが示唆されているという状況」と定義されている。インフルエンザA(H1N1)すなわちAソ連型インフルエンザは毎年のように世界的に大流行一汎流行(パンデミック)を起こしているが、これに対しては、パンデミック警戒レベルのフェーズをあてはめない。ところが、2009年4月27日、WHOはこのAソ連型インフルエンザに鳥インフルエンザの汎流行を想定して作られたパンデミック警戒レベルの定義を適用してフェーズ4宣言を行った。

まとめれば、(1)WHOは豚インフルエンザはA(Hsw1N1)がA(H1N1)に包含されていることを失念した。(2)WHOはさらに豚と鳥を混同した。

b. 2009年4月29日に厚生労働大臣 舛添要一

氏は緊急記者会見を行い、新型インフルエンザ登場を表明

厚生労働省はインフルエンザA(H1N1)の流行であることを伏せ、新型登場を宣言し、日本国民をミスリードした。以下に記者会見の全文を引用する。

新型インフルエンザの発生について

2009年4月28日(火)

厚生労働大臣 舛添要一氏 記者会見 全文

ハイ 皆様おはようございます。エー 新型インフルエンザ発生について緊急に私の方から国民の皆さんにお知らせを申し上げます。エー 日本時間の4月27日23時、WHOにおいて専門家による緊急委員会が開催され、その結果を踏まえて公表されたWHO事務局のステートメントの中で、継続的に人から人への感染がみられる状態になったとして、フェーズフォア、フェーズヨン宣言が正式になされました。こうした事態を受け、厚生労働省としては、メキシコ、アメリカ、カナダにおいて、「感染症の予防及び感染症の患者に対する法律」に規定する新型インフルエンザ等感染症が発生したことを、ここに宣言いたします。今後は、同法や検疫法に基づき、新型インフルエンザのまん延防止のために必要な措置を講じていくとともに、「新型インフルエンザ対策行動計画」等に則って、関係省庁と密接に連絡しながら、国民の生命と健康を守るため、万全の対策を講じていくこととしております。

まずはウイルスの国内への侵入を阻止するため、水際対策の徹底を図っていくことに万全を期します。厚生労働省においては、メキシコ便を中心として検疫体制の強化を図って参りましたが、今後は検疫法等による強制措置の実施や、検疫所と各地保健所との連携による徹底した健康監視を実施してまいります。また、国民等に対する相談体制については、各地方公共団体でも保健所等において相談窓口がほぼ設置されております。さらに、厚生労働省内には既にコールセンターを設置しており、国民の皆様の不安解消に努めているところであります。加えてこの際国民の皆様に申し上げたいことは、第一に何と言っても正確な情報に基づき冷静に対応していただくことがもっとも大切だということあります、第二にメキシコ等の発生国への渡航を避けることを検討されたいと思います、第三に感染防止の基本はマスクや手洗い、うがい、人混みを避けるといった日常的な個人予防策が極めて重要であることであります。

今後とも適時的確な情報提供を行い、国民の皆様と一緒にとなって、必ずこの危機に打ち勝つべく全力を挙げてまいりたいと思います。以上でございます。

上記記者会見の内容においては、(1)WHOは2009年4月27日の事務局長声明でA(H1N1)豚